

# 江戸川大学保健だより

NO. 013 09 年 05 月

江戸川大学 学生相談室 医務室 (C 棟)  
soudan@edogawa-u.ac.jp 内線 477

## 外国人留学生在異文化になじむまで

1983 年、文部省が「留学生受け入れ 10 万人計画」を策定して以来、日本に渡来する外国人留学生数は急増し、2008 年では、123,829 人に膨らみました。このうちの半数以上が中国人留学生です。さらに文部科学省は 2008 年 7 月に「留学生 30 万人計画」と大幅な受け入れ方針を表明しました。

これら外国人留学生のほとんどは、初めて自国を離れて異文化の中で生活し、適応することを求められます。

異文化適応の定義には、「異文化の環境との相互作用を通して自己実現を目指そうとする過程」、「ある個人が自分の生れ育った社会環境から離れて、異なった新たな環境に次第に慣れていく過程」等があり、留学生の異文化への適応過程は、異文化を受容し、同時に異文化ストレスに対処する過程であると言えます。

## 異文化適応を促進する要因 その1

### 文化受容態度

文化受容態度は、異文化に接触した時の日常的交渉の仕方が、どの文化に価値を置くかによって決定されると考えます。異文化と自文化の両方に価値を認める時は、“統合”、異文化のみに価値を置く場合は“同化”、反対に自文化のみに価値を置く時は“分離”、異文化と自文化両方に価値を置かず無関心な時は“周辺化”という 4 つの態度に分けられます。留学生の異文化適応に最も適応するのは“統合”の態度であることが明らかになっており、自分の留学生を肯定的、積極的に評価していることが考えられました。

報告者：人間社会学科 H19 年度卒 柳 佳慶

監修者：人間心理学科 松田英子

健康に関するご相談、保健便りに関するご質問等がございましたら、C 棟相談室までご連絡ください。

soudan@edogawa-u.ac.jp

## 異文化適応を促進する要因 その2

### 自己効力感

自己効力感は、行動を起こす意思、行動を完了しようとする意思、逆境における忍耐から構成され、留学生の自己効力感は滞在国における適応感に大きく影響していることが予想されます。

## 留学生在異文化で楽しく過ごすためには

そこで、私はこの 2 つの要因に注目し、日本の私立大学に在籍している中国人留学生 94 名（平均年齢：25.23）に調査を行ったところ、次のような結果を得ました。

“統合的文化受容態度が高い”留学生は低い留学生より、ポジティブな対人関係体験が多く、“自己効力感の高い留学生”は低い留学生より、ポジティブな対人関係、目標の達成の両方が上手くいっていることが明らかになりました。またその他の要因として、目標がなかなか達成できない原因としては日本語能力の低さも影響していました。

本調査は在日中国人留学生を対象ですが、得られた結果は在日外国人留学生全般にも当てはまるのではないかと考えられます。

留学生の異文化でのストレスを軽減し、適応を促進するためには、「自己効力感」の向上を目指し、文化受容態度を「統合的」に変容することが大切です。

江戸川大学の留学生の皆さん、自分の目標は自分自身で達成できるという自信を持ち、自分の国の文化を誇りに思いながら、日本文化をも理解しましょう。文化には優劣も、良し悪しがありません。また基本的なことですが、日本語の勉強も頑張って、よりよい成績を取り、日本での留学生生活を倍楽しみましょう！GOOD LUCK！